

男女共同参画担当理事就任に寄せて



理事ご挨拶

企画・人事・
男女共同参画等担当理事
西山 晋

平成26年4月1日に男女共同参画担当になりました西山晋です。よろしくお願いします。

詳しく調べたことはありませんが「男女共同参画担当」の冠を拝した理事職は国立大学法人ではあまり聞いたことがありませんでしたので、拝命した時は若干の戸惑いがあったのは事実です。

ただ、それだけ大分大学が男女共同参画に力を入れている証だということだと思います。

平成25年4月からの第2期男女共同参画行動計画、さらには次世代育成支援対策推進法に基づく第4期一般事業主行動計画の規定を踏まえ、本学に在籍する全教職員を対象とした「働きやすい職場環境づくり」や「キャリアアップ支援」を進めるために、男女共同参画推進室では様々な取組を行っております。今年度は後期授業として将来の日本を担う本学学生への意識啓発のため、教養教育科目「男女共同参画入門」を開講します。また家庭生活と教育・研究・就業との両立支援の具体的な行動計画を着々と進めています。

男女共同参画の意識はなかなか浸透しにくく、一朝一夕に成しとげられるものではありませんが、男女共同参画推進室とともに一步一步確実に取り組んで参りますので、多様な男女共同参画の取組に皆様のご理解、ご協力をお願いします。

大分大学 女性大学院生の研究と大学生活 理工系の魅力を紹介！ 高校生・後輩へのメッセージ



美野 友紀さん

大分大学大学院工学研究科
機械・エネルギーシステム
工学専攻 修士2年
(広島県出身)

研究内容

流体力学研究室という、物体周りの流れの様子や物体が流れから受ける力を調べる研究室に所属しています。私は円柱を支持する壁面が円柱周りの流れに与える影響を調べており、実際に空気や水の流れの中に円柱を置いて圧力や流速の測定などを行っています。

進路決定のきっかけ

私は車が好きだったので乗り物の設計・開発に関わる仕事に就きたいと思い、工学部に入学しました。入学前は、車が好きだからとただ漠然と考えて、工学部で何をやるのかもあまり知らずに進路を決めました。大学院まで進学したのは、研究室に入ってからの実験・研究がとても楽しかったからです。特に私は実験をするのが好きで、上手いかわなくて試行錯誤する過程も楽しいです。また成功したときの喜びはとても大きいです。この研究での経験が、ただ漠然と設計・開発に関わりたいと考えていた卒業後の夢を、実験・解析をして問題改善をしていきたいという具体的なものに変えてくれました。

工学部・工学研究科の魅力

私の学科では基礎的な授業はもちろんですが、「紙コップを持ち上げて運び、箱に入れるロボット」をつくるという実際に自分たちで機構を考え、モノづくりをするという授業などもありました。実際にモノづくりをするという、力仕事のようなイメージがあるかもしれませんが、モノをつくるためには機構を考え、デザインを決め、材料の調達をして、という様々な過程が必要です。その中で女性ならではの視点が役立つことも多々あります。工学分野は、まだまだ女性が少ないですが、だからこそ必要とされる場面も多く、様々なことに挑戦する機会もたくさんあります。私はこの環境だったからこそ自分を成長させることが出来ました。

高校生・後輩へのアドバイス

大学は何をするか、どういう風に過ごすか選択出来る幅がとても広いところなので、自分で行動しなければ何もせずに大学生活が終わってしまう、なんてこともあります。私は大学生活で、少しでも興味があることに自分で一歩を踏み出すことの大切さを実感しました。受動的になるのではなく、興味が少しでもあれば積極的に行動してみてください。

「猿橋賞」とは、地球化学者の猿橋勝子さんが創設した「女性科学者に明るい未来をの会」が、自然科学において顕著な研究業績を収めた女性科学者に贈る賞です。1981年より毎年1名に授与され、歴代の授賞分野は化学、物理学、生物学、医学、数学など多岐にわたります。第一線で活躍する女性科学者を表彰する大変名誉ある賞です。

大分大学男女共同参画一般公開セミナー7月5日(土)



藍澤早恵子 先生

7月5日(土)、大分大学男女共同参画一般公開セミナーをホルトホール大分にて開催し、本学関係者、行政関係、一般市民の方など約60名の参加がありました。

大橋京一理事による開会挨拶の後、松浦恵子男女共同参画推進室長が大分大学における女性研究者支援事業について説明を行いました。

続いて本学の女性研究者2名が発表

を行いました。

国際学会派遣支援事業に採択された、医学部附属病院精神科の藍澤 早恵子先生は、「神経可塑性に関わる遺伝子と、ストレスコーピングの方法の関連について」と題した発表を行い、工学部応用化学科の信岡かおる先生は、「イオン液体が導くグリーンケミストリー」と題し、お話しくださいました。



信岡かおる 先生

受賞記念講演には、本学の全学研究推進機構 一二三 恵美 教授に、「研究は『急がば回れ!』～努力は必ず役に立つ

～』との題で講演していただきました。とりわけ次世代の研究活動を担う女子大学生、女子高生の皆さんへ、女性研究者からエールを送る講演をお願いしました。

講演では、「若いみなさんへ、他の人との比較はやめましょう。比べるのは『昨日の自分』。あなたの努力をみているのは神様だけではありません。まわりの大人は、努力している若い人を必ず見えています。」とご自身の経験から得た本物のことば【努力】のメッセージをいただきました。

参加者から講師への盛大な拍手をもって、セミナーは終了しました。



一二三恵美 教授

参加者の感想を紹介

- “リケジョ”を増やすためにも、研究を志す生徒たちを増やすためにも、ぜひ高校現場での講演をしてほしい。
- 若い人に夢や希望を持ってもらえるような話、今日の話はそういう観点からとてもよかった。
- 社会人、人間としての基本的な心構えや姿勢からお話くださり、我が身を振り返る機会となった。研究内容はアニメーションを用いて、わかりやすく紹介されており、文系の人にも理解しやすかった。
- 研究内容が分からない人にも、先生の考え方、子どもの時からの生い立ち、研究に対する姿勢等分かりやすく話してくださり、とても有意義な良い講演だった。中、高校生にもお話を聞く機会があれば、仕事に対する考え方など、きっと良い影響を与えたいと思います。
- いつ研究がはじまって、マウスや人間での「作製」がいつかなどくわしくおしえてくれた。絵が多く高校生の自分でもわかりやすかった。とくに授業でやっていた分、話がわかり、おもしろかった。自分も先生のように何かに没頭できるような人間になりたい。
- 大分大学は、女性研究者のみなさんの育成・支援をがんばって、女性の活躍支援について、地域への影響力を発揮してほしい。
- とてもわかりやすくご説明下さり楽しく聞く事ができた。高校生の娘がいますが、今後の進路に対して力強いメッセージをいただけた。ありがとうございました。

…etc.



女性科学者に明るい未来をの会 第34回猿橋賞贈呈式および記念講演

女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞を大分大学全学研究推進機構 一二三恵美教授が受賞されました。その贈呈式が去る平成26年5月24日(土)東海大学校友館富士の間(霞ヶ関ビルディング 千代田区霞が関3-2-5)において開催されました。

米沢富美子会長(慶應義塾大学名誉教授)の挨拶の後、郷通子先生(大学共同利用法人情報・システム研究機構理事、長浜バイオ大学特別客員教授)より「研究は挑戦と人の繋がり」というタイトルの特別講演がありました。猿橋先生の業績の紹介の後、生物物理、DNAとタンパクの統計力学の話から今現在まで研

究をされている遺伝子、ゲノム、生物進化の話まで各分野の研究者との出会いの話を交えながら力強く熱い講演をされました。

つぎに高山一選考委員長より猿橋賞選考過程の紹介がありました。2段階の審査を経て、独創的で新領域のさらなる開拓が期待される研究として選ばれた旨の報告がありました。

贈呈式は、米沢会長から賞状と目録が手渡されました。

その後、「機能性タンパク質 スーパー抗体酵素に関する研究」というタイトルで受賞記念講演が行われました。当該分野、研究の紹介からスーパー抗体酵素を1996年にマウス型で発見したきっかけ、その後、様々な努力をして探索し、2000年に2例目を取得したこと、2006年までマウス型を作製し、動物実験(in vivo)に成功したこと、そして2007年から現在までのヒト型への応用研究まで、種々のイラストを駆使されて高度な内容を大変わかりやすく講演されました。

贈呈式には100名を超える出席者があり、その後の場所を変えての懇親会も和やかな雰囲気のもと、歴代の受賞者も多数参加され盛大に行われました。



【男女共同参画キャリア部門 西口 宏泰委員】



特別講演 郷 先生



贈呈式 (左 米沢会長/右 一二三教授)



懇親会 猿橋賞歴代受賞者 関係者と



懇親会 メディア取材風景



大学院生と大濠高校へ学校訪問

初めての取組を試みました

—高校1年女子生徒とそのお母さん方との交流—

2014年6月21日(土)に福岡大学附属大濠高等学校を訪問し、これから大学進学を考える女子高校生(1年生)のみなさんと、理科系女性研究者の身近なロールモデルである本学工学部の女性大学院生(美野さん)、女性教員(堤先生)、松浦室長との交流会を行いました。

男子高だった福岡市中央部に位置する大濠高校は2年前に男女共学とし、優秀な「理系」の女子生徒さんを戦略的に集め熱心に教育されています。一般に、県内、県外のほとんどの高校の理系の女子生徒さんは、生物と化学を選択し、物理と数Ⅲを避ける方が多いと私どもは分析しています。

最近、精密機器や自動車など機械系産業や電気系産業からは女性研究者の求人が増えていますが、物理、数学が必須の工学部では女子学生が圧倒的に少ない状況です。そこで、文理分けと同時に理科系の科目選択を高校で決定される9月よりも早く、理系、特に工学部機械系、電気系に興味を持って頂けることを目的として、高校1年生女子生徒さんとお母さん方に対して、工学部の研究と生活、就職状況についてご紹介する場を大濠高校に設けて頂きました。具体的な目的は、1人でも多くの女子生徒さんが、数Ⅲと物理を選択する理系コースに進学してもらうこと、本学工学部の特徴をお伝えすることでした。

当推進室から本学の男女共同参画推進の取組を医学部の松浦室長が説明され、工学部からは石川が広報担当者として工学部での勉学や就活などの話をしました。医学部を希望する女子生徒さんは松浦室長に質問し、工学部に興味を持つ生徒さんとお母さん方からは女性教員に質問がありました。



同じような取組を特進クラスを持つ福岡の私立高校の女子1年生に対して8月下旬に行います。この時には、佐賀大学の男女共同参画推進室とも連携して展開することを企画中です。

2年後に大分大学を受験してくれる女子生徒さんが増えることを願っています。

【男女共同参画キャリア部門 石川 雄一委員】

第15回FAB交流会を開催しました(6月9日)



6月9日(月)のランチタイムに、旦野原キャンパスの男女共同参画推進室で第15回FAB交流会を開催しました。

今回は女性教員6名、福祉社会科学研究科の女性大学院生3名、工学研究科福祉環境工学専攻の女性大学院生3名を迎え、14名の交流会となりました。



普段聞くことのできない他学部・他研究科の女性研究者との楽しい情報交換の場になり、予定の時間を約1時間延長し交流会が終了しました。

男女共同参画推進室の室員が変わりました(旦野原キャンパス)

平成26年4月より男女共同参画推進支援係が新しい事務職員に変わりました。企画課から人事課へ担当が変わり、今まで「女性研究者サポート室」から男女共同参画推進室を支えてこられた方々が築き上げた活動をもとに、新しい取組に挑戦できればと思っています。

女性専用の「休憩室」もございます。皆さま、お気軽に推進室へお越しください。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。